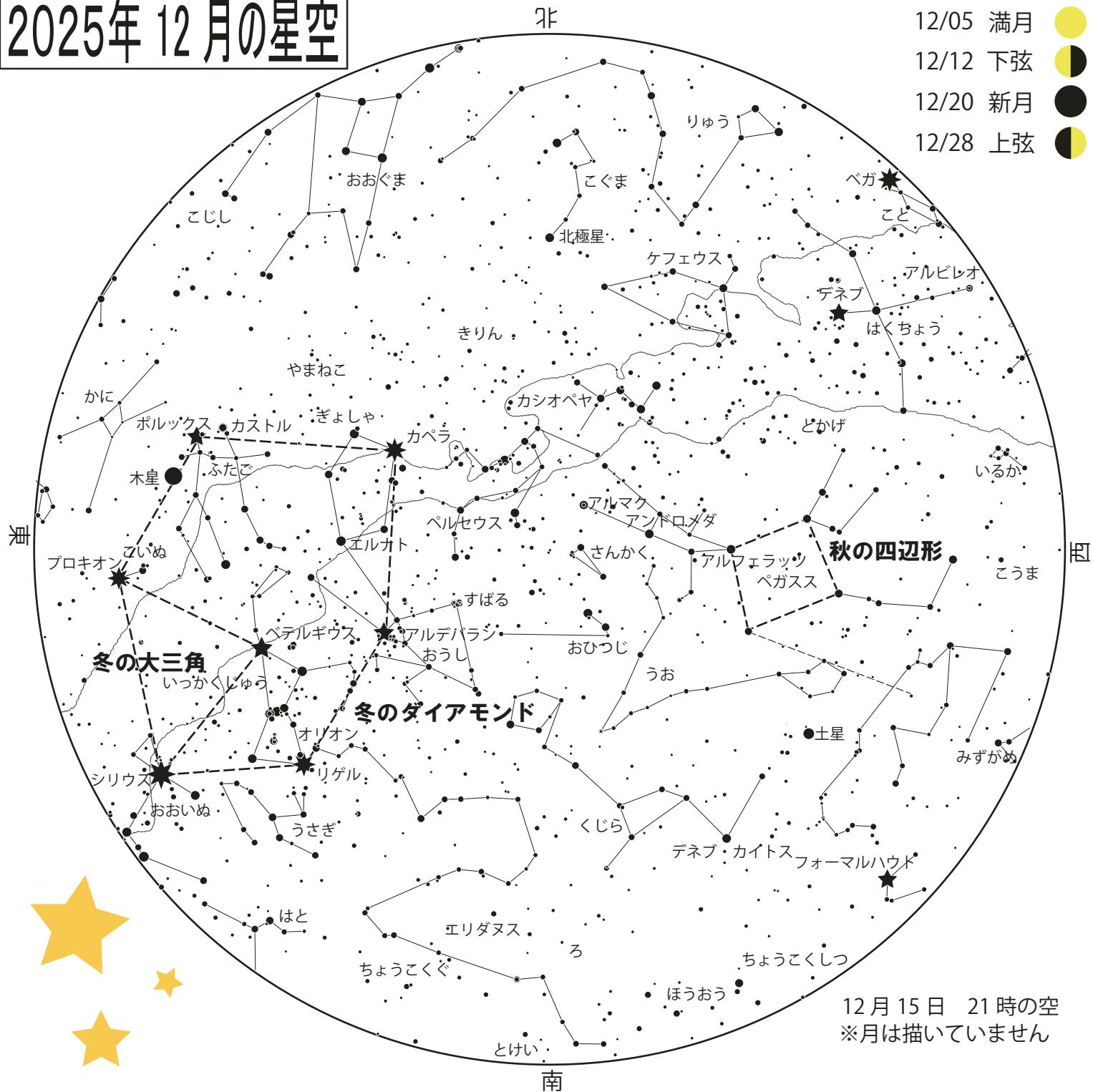


姫路で見る 2025年12月の星空

図の中心が頭の真上(天頂)、まわりの円が地平線です。
この星図は見ている方向の方位を下にしてください。



12月22日の「冬至」は、昼が一番短く夜が一番長い日です。日の入りが最も早いのは11月下旬～12月上旬で午後4時49分頃、日の出が最も遅いのは来年の1月上旬で午前7時9分頃です（ともに姫路での時刻）。

夜のはじめの頃、夜空はみずがめ座、うお座など、目立たない秋の星座が中心です。両星座を移動中の土星と、みなみのうお座のフォーマルハウトだけが存在感を示しています。夜遅くになると、東の空は明るい星の多い冬の星座でいっぱいになります。おうし座のアルデバラン、オリオン座のベテルギウスとリゲル、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオン、ふたご座のポルックス、ぎょしゃ座のカペラなど、冬の一等星たちが作る「冬のダイアモンド」や「冬の大三角」も、全体が見えてきます。ふたご座では木星が明るく輝いて、東の空はとても賑やかです。水星は8日に「西方最大離角」を迎えるため、姫路では日の出30分前の高度が10度を超えて、見つけやすくなります。明るさはマイナス0.5等ほどです。

「ふたご座流星群」が最も見頃となるのは12月14日の宵から15日の明け方です。月明かりの影響が少なく、好条件で多くの流星を楽しむことができるでしょう。